



2026年 3月 5日

各 位

会 社 名 岡本硝子株式会社
代表者名 代表取締役会長兼 CEO 岡本 毅
(コード番号 7746 東証スタンダード)
問合せ先 財務経理部長 風間 卓
電 話 04-7137-3111

南極「アイスキューブ」アップグレード計画における「D-Egg」用ガラス耐圧容器の採用について(補足情報)

2月13日付「南極 IceCube アップグレード計画における D-Egg 用ガラス耐圧容器の採用について」(次ページ参照)において当社ガラス製品が、千葉大学の光検出器「D-Egg」に採用されたことをお知らせいたしました。今般、IceCube の改良工事の完了が日本経済新聞のサイエンス・フロンティア欄で解説され、合わせて「岡本硝子製のガラスを活用」している旨が報じられていますので、補足情報としてお知らせいたします。

記

当該記事

日本経済新聞 2026年3月3日朝刊 22 ページ 「サイエンス・フロンティア」欄
ニュートリノで宇宙の謎に迫る 千葉大など、観測施設改良

以上

【2026年2月13日 当社ニュースリリース】

南極 IceCube アップグレード計画における D-Egg 用ガラス耐圧容器の採用について

当社が製造したガラス耐圧容器が、千葉大学ハドロン宇宙国際研究センターをはじめとする国際共同研究「IceCube（アイスキューブ）実験」アップグレード計画において、光検出器「D-Egg」の主要構成部材として採用されました。

記

IceCube 実験は、南極点直下の氷床に設置された世界最大級のニュートリノ観測装置であり、14 か国 58 機関が参加する国際プロジェクトです。本アップグレードでは、600 台を超える新型高感度検出器が新たに設置されたことが本日午前 9 時に千葉大学から発表され、その約 4 割を占める D-Egg に当社製ガラス耐圧容器が使用されました。

D-Egg は、氷床下最大約 2,600 メートルの高圧環境下で長期間安定動作することが求められる最先端検出器であり、当社の高精度成型技術及び耐圧・高信頼性ガラス技術が評価され採用に至りました。

本件は、当社の特殊ガラス技術が極地環境における最先端科学研究を支える重要部材として活用された事例であり、当社技術力の国際的評価を示すものです。

今後も当社は、宇宙・深海・極地などの極限環境用途に対応する高機能ガラス製品の開発を推進し、科学技術の発展に貢献してまいります。

なお、2026年3月期の連結業績に与える影響は軽微です。

《参考》千葉大学ニュースリリース

URL ; https://www.chiba-u.ac.jp/news/research-collab/post_634.html